

暮らしに密接に関わるモノから、人々の思いを、 その時代の雰囲気を感じ取ってみよう！

昭和学院中学校高等学校 神山 知徳

1. 実施学年及び教科・領域

中学校第1学年 社会科歴史的分野

高等学校第2学年・第3学年地歴科日本史B

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) ねらい

① 学習指導要領との関連

『中学校学習指導要領解説 社会科編』（平成20年9月）では、社会的な見方や考え方を養うことをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなど、言語活動にかかわる学習を一層充実することを重視している。また「日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果の活用や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなどして具体的に学ぶことができるようにすること。」とも述べている（70～71頁）。

同様に『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（平成22年6月）でも、日本史Bの改訂の趣旨として、「歴史的思考力を培うことを一層重視する。」と述べている（3頁）。特に地域社会の歴史と文化の学習については「文献資料、新旧の地形図や写真のほか、県史や市町村史、学校ほか諸団体の沿革史など各種資料の活用、情報通信ネットワークを利用した情報の収集・活用を図るとともに、博物館や資料館の利用、聞き取り調査、現地での文化財の観察など、『歩く、見る、聞く』ことによる様々な学習法法の工夫が望まれる。」と述べている。さらに「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」の各項目を立て、歴史を考察し表現する学習と導入、まとめを重視し、言語活動を充実させるとも述べている（79頁）。

② 単元の目標

- 博物館展示資料に対して興味関心を持つ。（関心・意欲・態度）
- 博物館展示資料について、その疑問点を見つけ出し、批評し合い、仮説を立てることができる。（思考・判断・表現）
- 博物館展示資料について、その展示意图を読み取り、レポートにまとめることができる。（資料活用の技能、知識・理解）

(2) 博物館との関連

- ① 活用方法 来館型活用を主に実施し、後日校内で授業（課外）を行う。
- ② 活用資料 第2展示室 京都の町並み（模型）、和鏡

(3) 指導観

本校は、歴博の最寄り駅である京成佐倉駅と同じ京成本線の京成八幡駅に近接し、来館型の実践が可能である。こうした地の利を生かして、例年長期休業中に希望者による実践を行っている。今回は中学1年生、高校2・3年生を引率した。なお本学院中学校では中1・中2で社会科のうち地理的分野・歴史的分野を同時並行で履修し、高2・高3で日本史Bを分割履修している（文系必修）。

本校は中高一貫校であるため学齢の幅が広く、当然それぞれが持っている知識や経験、表現能力には大きな差がある。そのため同一の教材、同一の視点で授業をすることは難しい。ところが博物館展示資料はそれぞれの視点、それぞれの力量にあった形で扱うことが可能である。そこに博物館利用の面白さがある。

本実践では、言語活動にかかわる学習の場を博物館展示に求め、展示に込めた研究者・学芸員の思いを読みとり、その展示から切り取った一場面にタイトルとキャプションを付けさせ、後日それぞれプレゼンをさせようとした。それは以上の段階に、参加者同士の学び合いと参加者自身の探究活動を入れて、より高次の認識へと向かう道筋を付けようとしたからである。

同様の試みはこれまでも行ってきたが、記述内容は展示中にあるキャプションをなぞったものの域を出ず、生徒自身も達成感をあまり感じるができなかった。また容易に完成にも至らなかった。それは、その日のうちに作業が終わらず、1ヶ月以上経った夏季休業明けに課題を回収しようとしたからであった。提出までに間が空きすぎ、モチベーションが下がったことがその大きな原因であると思われた。子どもたちの探究活動に対するモチベーション、知的好奇心・探究心を維持するにはどうすれば良いか、その仕掛けとして今回設定したのが、研究者による調査・研究活動の追体験であった。研究者（展示に直接関わっている人）の生の声が子どもたちの学習活動にどのような影響を与えるのか、その効果を見て、博物館と学校の連携のあり方を追究したい。

3. 指導計画（夏季休業中の1日間と休業明けの1日間の合計2日間）

初日（夏季休業中） 於歴博

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入 10分	10分	○本時の進め方について説明を受ける。 ○展示物を撮影する際の注意点について説明を受ける。	□カメラの使用法を示す（フラッシュを焚かない）。筆記用具は鉛筆のみであることを示す。 ■博物館資料の保護について配慮すべき点を理解し、実践できるか。 〈ワークシート、関〉

展 開 260分	60分	<p>○第2展示室を見学する。</p> <p>○人々の祈りやよろこび、かなしみなど、人の心がみえてくるような展示物をさがす（写真も撮る）。</p> <p>○それらからどのようなことを予想（感じ取ることが）できるか、書き出してみる。（ワークシートその1）</p>	<p>□特に興味を持った展示物についてはメモを取り、写真を撮るよう指導する。</p> <p>■展示物をよく観察し、読み取ったことを記録しているか。</p> <p>〈ワークシート、技〉</p>
	50分	<p>○村木二郎先生（中世考古学）の案内でバックヤードを見学する。</p> <p>○歴博が所蔵する和鏡の調査目録を作る。（調査用紙）</p>	<p>■和鏡についての解説を理解しようと努めているか。〈ワークシート、関〉</p> <p>■資料の扱い方を最後まで丁寧に行うことができるか。〈観察、関、技〉</p> <p>■和鏡の分類と目録作りを行うことができるか。 〈目録、技〉</p>
	(昼食)		
	45分	<p>○今回取り上げる展示物を1つ（または2つ）決め、そのスケッチを紙の真ん中に描く。（ワークシートその3）</p> <p>○用紙をとなりに回し、他の人の用紙には自分のコメント（読み取ったこと、疑問に思うこと）を書いた付せんを貼っておく。</p> <p>○3人の間で回し終わったら、付せんに書いたコメントの内容をよく読み、意味がよく分からなかったら、書いた人に説明してもらおう。</p>	<p>□各自の付せんの色を決めておく。</p> <p>■展示物のスケッチから、疑問点・意見を的確に示すことができるか。</p> <p>〈ワークシート、思〉</p> <p>■関心に従って必要な情報を取捨選択し構成できるか。</p> <p>〈ワークシート、思〉</p>
	105分	<p>○タイトル付けとキャプション作りを行う。（ワークシートその4）</p> <p>○他の人に書いてもらったコメントを参考に、用意された資料（書籍）を使って疑問を解決する。</p> <p>○各自でその展示物にふさわしいタイトルとキャプションを付ける。</p>	<p>■題材と関心に適したタイトルとキャプションを作成できるか。</p> <p>〈ワークシート、思〉</p> <p>□出典は明らかにさせる。</p> <p>□説明文の作成に際しては、用意された資料（書籍）を使わせる。スマホが使えれば使わせてもよい。</p>
ま と め 30分	30分	<p>○作成したワークシートや配付された資料を整理する。</p>	<p>□途中で作成したワークシート類も後日すべて提出させる。</p> <p>□完成した作品（ワークシート4）は夏休み明けに提出するよう伝え</p>

		る。 □第2学期にプレゼンを行うことを伝える。
--	--	----------------------------

2日目（第2学期中） 於本校

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入 5分	5分	○本時の進め方について説明を受ける。	
展開 40分	30分	○それぞれワークシート4を使って、最終プレゼンを行う。 ○他の人のプレゼンを聞いて、評価する。 ○質問に答える。	<p>■タイトルに込めた意味・思いが伝わってくるか。〈ワークシート、技〉</p> <p>■その時代のイメージが伝わってくるか。 〈ワークシート、技〉</p> <p>■自分がタイトルに込めた意味・思いが他の人に伝わるか。 〈ワークシート、技〉</p> <p>■その時代のイメージが上手く伝わるか。 〈ワークシート、技〉</p> <p>■資料の展示意図を読み取り、レポートに適切にまとめることができるか。 〈ワークシート、知〉</p> <p>■和鏡調査実習から分かったことが明確に書けるか。〈ワークシート、技〉</p> <p>■資料に対する研究者の思いの深さを実感できるか。〈ワークシート、関〉</p> <p>■自分の目で博物館展示資料を見るとき、和鏡調査実習の時と同じような気持ちが蘇ってくるか。 〈ワークシート、関〉</p>
	10分	○事後アンケートに答える。	
まとめ 5分	5分	○事後アンケートの記入内容を題材に、本時の授業を振り返る。	□生徒が達成感を得られるよう、生徒の歴史認識の深まりに着目する。

4. 実践の概要

本実践は、平成28年8月3日（水）と平成28年12月10日（土）の2日間にわたって行った。参加者は初日が3名（中1・高2・高3各1名、いずれも男子。於歴博）、2日目が2名（中1・高2各1名、於本校）であった。

初日は、午前10時より歴博のガイダンスルームで本時の進め方について説明した。特に今回は「暮らしに密接に関わるモノから人々の思いを、その時代の雰囲気を感じ取ってみよう！」というテーマのもと、「人々の祈りやよろこび、かなしみなど、人の心がみえてくるような展示物をさがそう」と伝え、併せて写真も撮ってくるよう指導した。このテーマにしたのは、展示物を見る際の姿勢を新たな知識を得るためではなく、資料に寄り添いそれが使われていた当時の心情（例えば「うれしい」「悲しい」など）にせまるようにするためであった。

実際の記入例（ワークシートその1、高2男子）が右の資料である。その際には、予想できることも記入させた。例えば冒頭の「石の中に彫られた仏像」については、「祈り、よろこび、かなしみのすべてが感じられる。」「道行く人にいろいろな感情を与えていくものと見える。」など石仏が造られた意味を積極的に考えようとしている。同様に「守られているものによって建物の造りが異なる」（第2展示室の京都の町並み模型中の土倉のこと）と指摘し、そこに「大切なものを守りたいという貴い心」があると書いている。

続いて村木二郎准教授（中世考古学）にバックヤードを案内してもらい、歴博が所蔵する和鏡の調査目録作りを体験した（ワークシートその2、高2男子）。和鏡とは日本中世の青銅鏡で、銅・亜鉛・錫の合金で出来ている。錫が多いほど銀色に輝き（白銅質）、上質であるという。11世紀末から14世紀中頃には京都七条町・八条院町での生産が盛んになり、高い工芸技術を誇った。さらに中国や朝鮮半島にももたらされ、そのコピー商品が作

暮らしに密接に関わるモノから
人々の思いを、その時代の雰囲気を感じ取ってみよう！
その1（8月3日）

① 第2展示室（平安時代～室町時代）の展示室から、人々の祈りやよろこび、かなしみなど、人の心がみえてくるような展示物をさがしてみよう（写真も撮っておこう）。
② それらからどのようなことを予想（感じ取ることが）できるか、書き出してみよう。

① 展示物名と特に注目したところ	② 予想できること
<p>石の中に彫られた仏像</p> <p>鉄砲のコーナー 鉄砲が伝わり、戦いの仕方が 溜まった。→ 人々によろこび</p> <p>武器の増加により、 戦い、 火器も溜まったはず。</p> <p>② 街のコーナー ・通りが広がった道路。 ・水が通りぬける。解放的な まちなみ。 ・守られているものによって建物の 造りが異なる。→ 大切なものを 守りたいという思い。</p>	<p>祈り、よろこび、 かなしみのすべてが 感じられる</p> <p>道行く人にいろいろな感情 を与えていくものと見える。</p> <p>よくお寺など、道行く人々についている ものとして、服装や住居の展示 （大したもの？）（羨望）</p> <p>守護 → 神（人の尖頂） が祈り」で守護。</p>

ワークシートその1（高2男子）

られるほどであった。ところが14世中頃に南北朝の戦乱で職人町が壊滅し、職人が拡散した。そのために品質の低下が甚だしかったという。

さらに和鏡の分類をする上での基本知識について講義を受け（ワークシートその2、高2男子）、その文様にしたがって分類作業を行った（上の和鏡調査用紙）。当然そこで聞く用語は初めてのものであったが、目の前にある和鏡に描かれた文様に引き込まれているようであった。鶴・亀や松竹梅、神仙が住み、不死の薬、金銀の宮殿があるとされる蓬莱山などの文様が持つ意味を考えながら、その文様が不明瞭になっていく様子を一つ一つ記録に取っていった。

中世の鏡 調査しよう

日本中世の青銅鏡 = 和鏡
 青銅鏡：銅・鉛・錫（すず）の合金。錫が多いほど上質（白銅質）
 鏡面に錫をメッキ（鍍銀）してよく映るように…鏡磨き

和鏡調査用紙 (高2男子)

番	界圍		鈕						植物文					動物文				備考
	一重	二重	花葉	電形	ほか	菊	松	竹	梅	礼	ほか	鳥	飛龍	雙龍	ほか			
21	✓																	表面が美しい鏡
23	✓																	界圍に花が描かれている。ひたひたの縁に彫刻。
27	✓																	100%鏡 - 7割程度の大きさ
28	✓																	圓いがある。
30	✓																	花が(植物)一つだけ描かれている。他に彫刻の模様。
31	✓																	120%の27日。
32	✓																	花の中心に彫刻の模様がある。
40	✓																	鏡が二匹いる。同じ方向。山は、彫刻がある。舟がある。
42	✓																	
45	✓																	27日、(1)の鏡が描かれている(あり)。
50	✓																	中央に花が描かれている。家の中心に彫刻の模様がある。
55	✓																	27日に似る。彫刻(花の中心)の模様がある。

このように研究者が行う調査研究活動を追体験した後で、改めて第二展示室を見学した。そこでは特に取り上げる展示物を一つないし二つ決め、デジカメなどに記録し、ガイダンスルームに戻って、用紙の中央にそのスケッチを書いた。そしてそれを隣の生徒に回し、他の人の用紙には自分のコメント（読み取ったこと、疑問に思うこと）を書いた付せんを貼っておいた。（ワークシートその3、高2男子）。

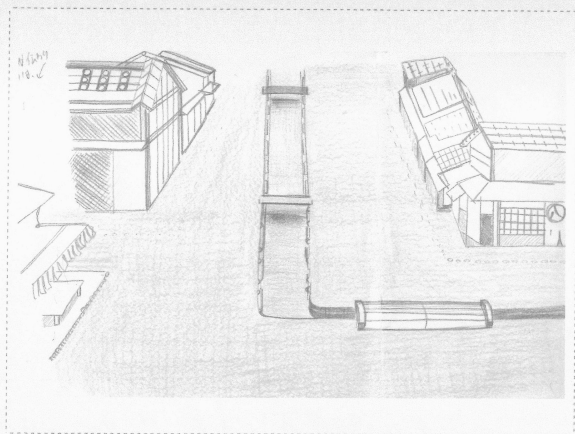
3人の間で回し終わったら、付せんに書いたコメントの内容をよく読み、意味がよく分からなかったら、



和鏡の調査目録作り

⑤ 完成作品 (中央にスケッチを描いておきます)

タイトル 京(今日)の町、らく道



キャプション

まだ写真がなかったころ、人々は目にしたものを後に残し、あるいは、人に伝えたいと思ったとき、絵を描いた。その絵は、あたかも空を飛び、上空から自分たちの町の姿を見る絵が出現した。それが今日「洛中洛外図」と呼ばれるものであり、この上の絵は、「図」を模型にしたものをスケッチしたものである。今日模型の祖となった「図」は、室町時代の京都を描いた1525年のものだから驚きである。

高校2年生

年

組

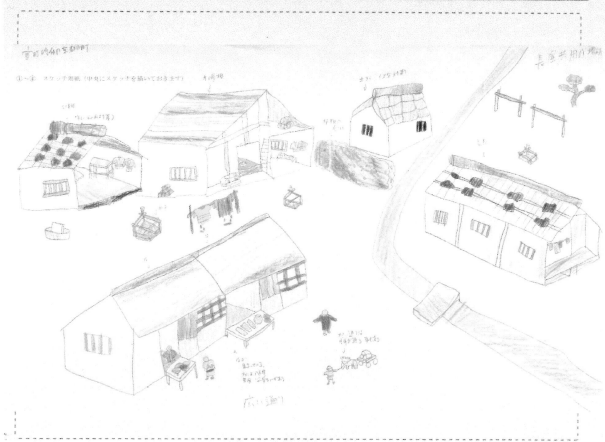
(No.)

氏名

ワークシートその4 (高2男子)

⑤ 完成作品 (中央にスケッチを描いておきます)

タイトル 室町時代の京都の町



キャプション

上の絵に描かれている2つの家はそれだけ屋根が違います。左の家は貧しい家、石を屋根にしたので風で飛ばないおににしています。その右は高所得の人の家、その右は高所得の人が持つ土蔵という倉庫です。他にも井戸がたまたまあるので水資源が豊富で事がかえまね。広い通りには店が集まっています。絵には土蔵屋と器屋が書いてあり、他にも米屋、八百屋、茶屋、薬屋などいろいろあります。

中学1年生

年

組

(No.)

氏名

ワークシートその4 (中1男子)

「暮らしに密接に関わるモノから人々の思いを、その時代の雰囲気を感じ取ってみよう！」

最終プレゼン

高2男子

① 報告者名

タイトルに込めた意味・思いは伝わってきたか。
時代のイメージは伝わってきたか

道が開けている広い
後世の人たちと離れた時絵になる。
川、築地のまなこを気持よく眺めてくる。
家の色装は品で身分が分けてくる。

② 報告者名

タイトルに込めた意味・思いは伝わってきたか。
時代のイメージは伝わってきたか

③ 自分の報告

タイトルに込めた意味・思いは他の人に伝わったか。
時代のイメージは上手く伝わったか

微妙に伝わりにくい所があった。

最終プレゼン感想 (中1男子)

「暮らしに密接に関わるモノから人々の思いを、その時代の雰囲気を感じ取ってみよう！」

最終プレゼン

中1男子

① 報告者名

タイトルに込めた意味・思いは伝わってきたか。
時代のイメージは伝わってきたか

絵からは、とても特長が良くおさげられているなとまず思いました。
町の様子からこの時代の身分の差もよくわかり、時代のイメージが
よく伝わってきました。

② 報告者名

タイトルに込めた意味・思いは伝わってきたか。
時代のイメージは伝わってきたか

③ 自分の報告

タイトルに込めた意味・思いは他の人に伝わったか。
時代のイメージは上手く伝わったか

少し伝わりにくい説明をしてしまったかなと思いました。京の自分の
それまでのイメージと、その日感じたイメージを合わせて表現したかったの
で「京」。

最終プレゼン感想 (高2男子)

① 和鏡調査実習から何が分かりましたか。

中に鏡をあしらっていたりと、さまざまな模様があることから、これを作つて人たちはさまざまな美をもっていたと思います。そして、長寿の生き方も加えられていることが観察して分かりました。

② 村木先生の和鏡調査実習から、資料に対する村木先生の思いの深さを実感できましたか。

和鏡の美しさ、おもしろさは、よく伝わってきましたが、正確なところ、村木先生と同じ思いとまではいえないでした。僕は、和鏡の模様の美しさをもっと伝えていきたいと思います。(いろいろな人がさまざまな方法で)

③ 思い出して見て下さい。自分の目で博物館展示資料を見るときに、村木先生の和鏡調査実習の時の気持ちと同じような気持ちがよみがえってきましたか。

和鏡を作った時代の人々の気持ちを考えながら展示を見ました。動物や植物を和鏡にとり入れて、鏡の美しさを伝えようとしていたのかな、とも少し思いました。
展示を見た後、

① 和鏡調査実習から何が分かりましたか。

太陽をまわっている動物をまわっている物、水をまわっている物などから、いろいろな教訓的なものを感じた。

② 村木先生の和鏡調査実習から、資料に対する村木先生の思いの深さを実感できましたか。

昔の人の暮らしが、これによって見えてくる気がする。

③ 思い出して見て下さい。自分の目で博物館展示資料を見るときに、村木先生の和鏡調査実習の時の気持ちと同じような気持ちがよみがえってきましたか。

模けいなを覗くとこの家の人は豊か多いのかなとか、この人は何をしているのかなとか、この人は何をやっているのかななどの感情が出てくる。道具を見るとこれはどう使ったのかという疑問が出てくる。

高2男子事後アンケート

中1男子事後アンケート

書いた人に説明してもらおう。その後タイトル付けとキャプション作り（ワークシート4、中1男子・高2男子）を行った。なおその際は、他の人に書いてもらったコメントを参考に、用意された資料（書籍）を使って疑問を解決するようにした。そして作業途中になったワークシートを完成し、休み明けに登校したときに教員に提出した。

2日目は、平成28年12月10日（土）放課後に行った。参加者は1名減って2名（中1、高2）で、それに教員を交えてプレゼンテーションを行った（ワークシート4、中1男子・高2男子）。それぞれ10分程度を使って発表し、質疑応答を行った。その際に留意したのは、①タイトルに込めた意味・思いを伝えるようにすること、②その時代のイメージを伝えるようにすることであった。中1男子の報告に対する高2男子の感想、高2男子の報告に対する中1男子の感想をみれば、ともに身分制社会であったことを双方伝えることに成功したようである。

それが終わると、生徒は事後アンケートに答えた。ここでは和鏡調査実習が展示資料を見るときにの姿勢に与えた影響をみてみたい。すると中1男子は「模けいなどを観るとこの家の人は豊（富）が多いのかなとか、この人は何をしているのかなとか、この人は何をやっているのかななどの感情が出てくる。道具を見るとこれはどう使ったのかという疑問が出てくる。」と書いている。また高2男子は「和鏡を作った時代の人々の気持ちを考えながら展示を見ました。動物や植物を和鏡にとり入れて、鏡の美しさを伝えようとしていたのかなとも、展示を見た後少し思いました。」と述べている。和鏡調査には難しさもあったが、この文様に込められた長寿の願いなどが、村木准教授の資料に対する姿勢から十分に生徒に伝わっていることがわかる。研究者の資料に対する思いは、何かしら生徒に影響を与えていることは疑いようがない。

5. 成果と課題

(1) 成果

- この実践を通じて、特に資料に対する研究者に触れることで、博物館展示資料に対する関心・意欲が増大した。この方法は何も特別なことではない。地域の博物館に勤務する学芸員に展示全体のツアーガイドをしてもらうのではなく、特にこだわっている展示資料について熱く語ってもらうことでも十分に伝わるのではないか。肝心なのは研究者が普段行っている調査・研究活動の一端を生徒が追体験することである。
- 取り上げた展示資料について、他の参加者とともに疑問を見つけあい、意見を交換することで、資料に対する理解が深まる。
- さらにタイトル付けとキャプション作りをすることで資料に対する理解が深まり、プレゼンを通じてそれを伝えることの難しさを知ることができる。
- 今回は展示資料を見る視点を「そこに込められた当時の人々の思いを読み取る」という形で設定した。その「思い」は研究者に代弁してもらうことで、生徒の資料を読み解く時のモチベーションとして有効に機能した。これは戦争学習や平和学習を文献などの探求学習という形で行うのではなく、祖父母など当時を生きた人々に語ってもらう方がより切実に伝わってくるのと同様の学習効果であるといえる。

(2) 課題

- 展示資料を観察し「へんだなあ」「なるほど!」と思うことを探すという手法はいかなる場所でも有効であるが、それが単に知識の獲得だけに終わるのであれば、歴史認識の深まりや転換にまでは達しない。それは生徒にとってその知識を得ることが決して切実な事柄ではないからだ。
- ならばいつでも地域の博物館に勤務する学芸員が、通常のツアーガイドの枠を越えて熱くその思いを語ってくれるのかといえば、必ずしもそうではない。平素の博物館またはそこに勤務する学芸員との協力関係、信頼関係なしには難しいところがある。そこで常に博学連携のネットワークを絶やすことがないよう、職場体験や移動教室(校外教育、校外授業)などを通じて、博学連携の情報共有をしあうことが必要であろう。